

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院に、脳卒中中で入院しリハビリテーション治療歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

急性期脳卒中に対する舌接触補助床(PAP)による摂食嚥下リハビリテーション治療効果に関する観察研究(横断研究)

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 講師 梅本 安則

3. 研究の目的

急性期脳卒中の患者さんは摂食嚥下機能(飲食物を嚥んで飲み込む機能)が低下する方が多いです。そのような方に PAP という補綴物を作製・使用すると回復を早める可能性があります。急性期脳卒中患者への PAP 使用例はこれまでに殆どありません。この研究の目的は急性期脳卒中の患者さんに PAP を作製しリハビリテーション治療を行った場合に摂食嚥下機能が早期に回復するかどうか調査する事です。

4. 研究の概要

(1)対象となる患者さん

急性期脳卒中の患者さんで、令和1年10月1日から令和4年3月31日までの期間中に、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の診断で入院された患者さんで PAP を作製した患者さんです。

(2)利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、診療録による病気の状態、日常生活の自立度、摂食嚥下機能の評価(最大舌圧、反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、嚥下造影検査:食べ物が通過する時間と誤嚥の有無等)に関する情報です。

(3)方法

診療録によるお体の状態(年齢、性別、疾患名、病歴、内服、合併症、麻痺の有無等)と摂食嚥下機能(最大舌圧、反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、嚥下造影検査:食べ物が通過する時間と誤嚥の有無等)への PAP の有無による影響に関する情報を収集して比較します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 担当医師 梅本安則
TEL : 073-441-0664 FAX : 073-446-6475 E-mail yumemoto@wakayama-med.ac.jp